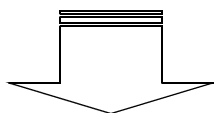


国語科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や授業アンケートや考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- 大半の生徒が落ち着いて積極的に授業に取り組んでいる。授業50分間集中力がもたない生徒、忘れ物の多い生徒、提出物を提出しない生徒も各クラス数名見られる。
- 「書く」活動が苦手な生徒と好きな生徒が同じくらいの割合でいる。短い文章を書く機会を増やすとともに、構成や内容についても指導し、苦手意識を取り除いていく必要がある。
- 文章内容をとらえることはできるが、そこから深く考えて自分の生き方に役立てるような学びはまだ不十分である。
- 授業の中では理解できた学習内容も、復習を習慣つけた生徒とまだ習慣化していない生徒では定期テストの点に差が出てきている。家庭学習を定着させることが必要である。



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲が低い生徒に対する働きかけをする。 ・説明的文章・文学的文章の学習では、文章の中に根拠を求めながら読みを深めていく習慣をつけさせる。 ・文のねじれや誤字脱字のない文章を書けるようにさせる。 ・定期テスト前に範囲をもう一度復習させ、内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時板書する学習の課題を確認させ、具体的な目標をもって取り組ませる。 ・机間指導を多く行い、課題に取り組めない生徒への支援を行う。 ・資料の提示に ICT 機器を活用し、生徒の興味や関心をひく。 ・教科書の本文中に線を引かせたり、語句を抜き出させる等、本文に目を向けさせるような発問のしかたを工夫する。 ・文の成分等、文法の学習と合わせて、文のねじれについても理解させていく。 ・漢字の読み書きの学習については、定期的に課題を出したり試験を行ったりし、学習習慣をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を写せない生徒への個別の指導。 ・学力を定着させるような板書やワークシートの工夫。 ・小テストの実施。 ・ワークブックの活用。未提出生徒への指導。

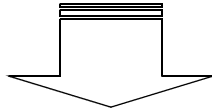
国語科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- 授業には全体的に落ち着いて取り組んでいるが、学習に対する興味・関心・意欲が低い生徒もあり、また理解できずに課題に取り組めない生徒や、最初からあきらめてしまう生徒も各クラス数名ずつ見られる。
- 「読む」活動の中では、一問一答の発問に対して考えてはいるが、積極的に発言したり、意見を交流することは苦手であるので、そこが課題である。発問の仕方を工夫したり、発言しやすい空気を作っていくことが今後の重点課題となる。
- 「語句・文法」などの言語事項は漢字とともに、基礎的な部分で練習不足、演習不足な点が多いと思われる。プリント学習などで繰り返し練習し、向上を図る。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲が低い生徒に対する働きかけをする。 ・内容の読み取りに終わらず、基本的な読解の仕方を理解させ、応用できるように指導する。 ・漢字の読み・書きの力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業の学習のめあてを明確にし、具体的な目標をもって取り組ませる。 ・グループ活動での意見交流や学びあいの機会を増やし、発言するをふやす。 ・説明的な文章の構成、段落同士の関係等、具体例等の基本的な読解のしかたを理解させる。 ・文学的な文章については、登場人物の心情の変化を示す描写や、情景描写等、重要な部分に着目する読み方を身につけさせる。 ・読解教材の中で、考えを文章にまとめさせたり、発表させたりする機会を作る。 ・漢字ワークや練習プリントなどを用いて、繰り返しの練習をし、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が授業内で仕上がらない生徒の「居残り補習」と、よりよいものを仕上げたい生徒対象の「自主居残り」を実施する。 ・小テストの実施。 ・学力を定着させるようなワークシートの工夫。 ・長文読解の学習の後、多くの文章を読ませることで、読解に慣れさせ、文章を読んで理解する楽しさを味あわせる。発展的読書教材の紹介。 ・自分の漢字力のレベルに合ったところからの復習をさせる。

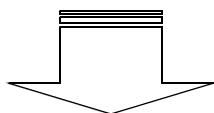
国語科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- 授業には全体的に落ち着いて取り組んでいるが、発言等が少なく、意欲はあってもそれを表現できない生徒が多い。課題に取り組めない生徒は昨年よりも減ってきた。
- 「話す」活動では、ノー原稿でスピーチできる生徒が約 60 %いる。「聞く」時の要点の掴み方、メモの取り方を工夫していく必要がある。
- 「書く」活動では、作文教材では 5 ～ 6 時間かけて書き方を指導し、80%の生徒は書けるようになった。ただ、何度添削しても文のねじれ、一文が長すぎるクセが治らない生徒も少なくない。
- 「読む」活動の中では、一問一答の発問に対しては積極的に挙手するが、じっくり考えて答えを出す発問は苦手であるので、そこが課題である。
- 「語句・文法」などの言語事項は、基礎的な部分で練習や演習が不足している生徒が多いと思われる。中学3年間の集大成として復習を徹底させたい。
- 「漢字」については、「朝学習」で漢字ドリルに取り組んでいる。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題に取り組めない生徒への対応。 ・まとめ問題集の活用。 ・漢字の読み書きの学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに目標と課題を明示し、目的をもって取り組ませる。 ・机間指導を行い、課題に取り組めない生徒への支援を行う。 ・個々にノート提出をさせ、理解度をはかる。 ・1年2年次の復習を兼ねて、授業の進捗とリンクさせながら問題集に取り組ませ、要点のとらえ方、問題ののパターン、解答の仕方等を理解させる。 ・朝学習の時間を使い、漢字の学習の習慣をつけさせる。 ・小テストを行い、新出漢字の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月19日(金)から3年国語金曜補習教室を希望者対象で実施。進路決定まで行う。 ・理解度を確かめるための国語科面談 ・朝学習の活用。 ・ワークの活用。

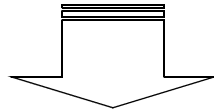
社会科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・WAT、学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

<ul style="list-style-type: none"> ・学力的には、全体的に全国平均を上回っている。全体的に授業態度もよく、意欲的である。。 ・全体的に小学校で身につけておかなければならない基本的な知識・理解は十分である。 ・自分の考えをまとめて発表したり、記述したりすることが苦手な生徒が多い。 ・学力上位者と下位者のギャップが大きい。、基礎学力が不足している生徒に関しては、家庭学習の習慣を身につけ、繰り返し復習することが必要である。

②指導方法の課題分析と改善策



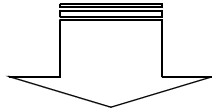
	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・復習ノートを使って自分の意見や考えを表現することが苦手な生徒が多い。 ・興味・関心の低い生徒は基礎学力が定着しない。 ・歴史的分野・地理的分野ともに学習してから時間が経過すると知識・理解があやふやになりやすい。 ・地理的分野においては、資料活用の技能や思考・判断・表現が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高めるために、教材や資料の利用を工夫する。 ・主題を積極的に活用しわかりやすくする工夫をするとともに、机間指導などを行い、個人指導の時間をできるだけ取るようにする。 ・板書を工夫し書く力と聞く力を身に付けさせる。さらにノート点検を行い復習による基礎学力の定着を図る。 ・発問に工夫をして思考・判断をする機会を増やしていく。 ・知識・理解を定着させるために確認のテストを行う。 ・ICT 機器を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な内容も盛り込んでいく。 ・必要に応じて確認テストを実施する ・資料や視聴覚教材を積極的に活用する。 ・復習ノートや小テストの活用方法を指導する。

社会科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

<ul style="list-style-type: none"> ・学力的には、地理的分野では全国平均を上回っているものが多い。歴史的分野では全体的に平均を下回っている。 ・自分の考えをまとめて発表したり、記述したりすることが苦手な生徒が多く、社会的な思考・判断・表現や資料活用の技能の底上げが必要である。 ・都学力調査では、平均を下回っていた。特に知識・理解においては、繰り返し学習できるように工夫する。 ・学力上位者と下位者のギャップが大きく、基礎学力が不足している生徒に関しては、家庭学習の習慣を身につけ、繰り返し復習することが必要である。



②指導方法の課題分析と改善策

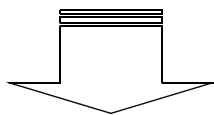
	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを表現することが苦手な生徒が多い。 ・興味・関心の低い生徒は基礎学力が定着しない。 ・歴史的分野・地理的分野ともに学習してから時間が経過すると知識・理解があやふやになりやすい。 ・地理的分野においては、資料活用の技能や思考、判断、表現が不十分である。 ・本時のねらいが理解できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高めるために、教材や資料の利用を工夫する。 ・主題を積極的に活用しわかりやすくする工夫をするとともに、机間指導などを行い、個人指導の時間をできるだけ取るようにする。 ・ワークシートや板書を工夫し、書く力と聞く力を身に付けさせる。さらにノート点検を行い復習による基礎学力の定着を図る。 ・発問に工夫をして思考・判断をする機会を増やしていく。 ・知識、理解を定着させるための課題を出す。 ・モジュール授業を活用し、小テストを行う。 ・本時のねらいを明確に提示する。 ・ICT機器を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な内容も盛り込んでいく。 ・必要に応じて確認テストを実施する ・資料や視聴覚教材を積極的に活用する。 ・問題集や小テストの活用方法を指導する。

社会科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にはほぼ全国平均と同程度の学力である。 ・全国平均と比べると、成績上位者と成績下位者が少ない。 ・基礎学力が不足している生徒に関しては、家庭学習の習慣を身につけ、繰り返し復習することが必要である。 ・自分の考えをまとめて発表したり、記述したりすることが苦手な生徒が多い。
--



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを表現することが苦手な生徒が多い。 ・興味・関心の低い生徒は基礎学力が定着しない。 ・歴史的分野・地理的分野ともに学習してから時間が経過すると知識・理解があやふやになりやすい。 ・地理的分野においては、資料活用の技能や思考、判断、表現が不十分である。 ・本時のねらいが理解できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高めるために、教材や資料の利用を工夫する。 ・主題を積極的に活用しわかりやすくする工夫をするとともに、机間指導などを行い、個人指導の時間をできるだけ取るようにする。 ・ワークシートや板書を工夫し、書く力と聞く力を身に付けさせる。さらにノート点検を行い復習による基礎学力の定着を図る。 ・発問に工夫をして思考・判断をする機会を増やしていく。 ・知識・理解を定着させるために確認の小テストを行う。 ・モジュール授業を活用し、知識の定着を図る。 ・本時のねらいを明確に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて確認テストを実施する ・資料や視聴覚教材を積極的に活用する。 ・問題集や小テストの活用方法を指導する。 ・時事的な内容も盛り込んでいく。

数学科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

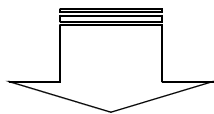
十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

・真面目にやろうとしている生徒は多いが、基礎的な達成度が不十分な生徒もいる。
課題は以下の部分と考えられる。

- ① 基礎的な能力不足から、なかなか授業中に集中できず、学習の定着が図れない。
- ② 問題集やプリント学習などの取り組みでも、できない部分をそのままにする、間違いをそのままにする、答えだけを直す、提出しない生徒がいる。
- ③ 計算力が不十分な生徒でも、途中計算式を書かず計算しようとしてしまう。
- ④ 基礎知識を生かした応用問題へ十分に対応できない。
- ④ 基礎計算プリントや宿題プリントを実施しているが、なかなか基礎学力が定着しない。

・授業アンケートの結果から、学力はつけてもらえるもの、というような受け身の姿勢が読み取れる。
・習熟度別の標準クラスでは、単に繰り返しではなく基本的内容の十分な理解が必要である。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が十分ではないため、小学校の復習を適宜入れながら、基礎の定着を図る。 ・能力的に平均以上ある生徒に対して、さらに向上できるように発展的内容に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことを学習する毎に、以前に学習した内容のつながり(復習)を取り入れていく。 ・問題集や演習プリントなどについては途中式の書き方を指導し、間違えた問題に対して、解説をよく読み、間違えた内容を理解するよう細かく声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に対応したプリント等を用意して、個に応じて補充・発展の学習に取り組ませる。 ・習熟度別授業を行うことで、今まで以上に、個に応じた指導ができるよう工夫する。

数学科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

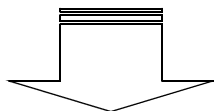
十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

・真面目に取り組もうとしている生徒は多いが、家庭学習の定着が図られていないため、基礎的な達成度が不十分な生徒もいる。
課題は以下の部分と考えられる。

- ① 基礎的な能力不足から、なかなか授業中に集中できず、学習の定着が図れない。
- ② 問題集やプリント学習などの取り組みでも、できない部分をそのままにする、間違いをそのままにする、答えだけを直す、提出しない生徒がいる。
- ③ 計算力が不十分な生徒でも、途中計算式を書かず計算しようとしてしまう。
- ④ 基礎知識を生かした応用問題への対応が身に付いていない。
- ⑤ 基礎計算プリントや宿題プリントを実施しているが、なかなか基礎学力が定着しない。

- ・授業アンケートの結果から、プリント学習を活用しながら単元の復習を取り入れていく。
- ・習熟度別のクラスによっては、基本的内容の確認を繰り返し行う必要がある。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から文字式を立てる、等式をたてる、方程式を解く、関数の考え方など1年の基本が定着してない。 ・基本的な部分を授業中に理解するものの、家庭学習が十分に習慣化していない。 ・能力的に平均以上ある生徒に対して、さらに向上できるように発展的内容に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに復習プリントを行い、基礎的な計算である正負の数の計算、文字式の計算、方程式の計算はほとんどできるようになっている。 ・家庭学習の基礎の徹底は、宿題プリントや問題集を使うことを強く呼びかけていく。補充プリントを作成、配布していく。 ・問題集や演習プリントなど、間違えた問題に対して、解説をよく読み、間違えた内容を理解するまで何度も解きなおすよう細かく声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて、さらに課題プリントを作成して配布していく。また、発展クラスについては、宿題プリントの応用問題を解くように指導し、更に実力を向上できるように指導していく。 ・習熟度別授業の中で、問題練習の機会を増やし、個々の苦手な部分の補充に努める。 ・習熟度別授業を行うことで、今まで以上に、個に応じた指導ができるよう工夫する。必要に応じて放課後や考査前に補習を行う。

数学科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(全国学力調査・学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考查結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- ・授業に集中して取り組み、授業の中では理解している生徒は多い。しかし、家庭学習の取り組みにばらつきがあり、演習が不十分な生徒も一定数いる。

・学力調査等の結果から得られる課題は、以下の部分と考えられる。

- ① 課題や問題集などの取り組みにおいて、できない問題をそのままにする、間違えた問題をそのままにする、途中式を直さず解答だけを写す、課題等を提出しない生徒がいる。
- ③ 応用問題に前向きに取り組めず、既習事項を生かして考えることがなかなかできない。

・授業アンケートの結果から、今後も補助プリント教材を活用しながら演習を取り入れていく。

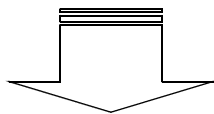
<十分に満足できるところ>

- ・基礎的な計算問題の達成率が高い。
- ・平行と合同の領域を除き、全国平均を上回っている。

<努力を要するところ>

- ・一次関数全般
- ・文章から情報を読み取り、立式して考えていく問題
- ・数学的な見方・考え方を要する問題

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から情報を読み取り、立式する、方程式を解く、関数を読み取るなど1、2年生の基本の定着が不十分である。 ・基本的な部分を授業中に理解するものの、家庭学習が十分に習慣化していない。 ・問題練習において正解か誤答かで一喜一憂して終わりになりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ内容の演習問題を繰り返し解くことにより、解き方が定着するように指導する。 ・各単元における数学的な用語などを再確認し、正しく理解させる。 ・生徒同士が教え合い、発表する場面を作ることで、質問や発言のしやすい環境を整える。 ・苦手意識をもつ生徒が多く出がちな証明問題にもあきらめず、繰り返し取り組ませる。 ・問題演習を多くし、基礎基本の計算力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査後に、試験内容の振り返りとしてレポートを作成させ、応用問題などの考え方への理解を深める。 ・習熟度別授業を生かし、個に応じて補充・発展の学習に取り組む。 ・昼休みなども利用して、生徒が質問しやすい場の設定を行う。

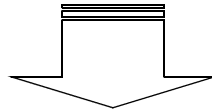
理科（第一学年） 授業改善推進プラン（様式3）

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
（学習診断テストの結果分析を含む）
 - ・日常の指導や考査結果分析

—— 十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など ——

- ・「自然に対する関心・意欲・態度」については、多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。観察・実験においても概ね同様である。
- ・「科学的な思考・表現」については、自身の考え方を表現する（文章で表す）という点で課題が見られる。また、実験・観察の結果を受けて、考察をする際に、結果のどの点を見ればよいか、何と何を比べたら、どんなことがわかるのかという比較して考える、関連づけるという点を伸ばすことが必要であると考えられる。
- ・「観察・実験の技能」については、実験・観察で使用する器具の名称や使い方の習得度合いに差がある。特に火の扱いやガスバーナーの使用方法は顕著な差がある。
- ・「自然現象についての知識・理解」については、学習不足である。授業中はほぼ全ての生徒が学習内容を理解できていることが多い。その内容を定着するための家庭学習や定期考査での学習を満足に行えていない生徒が多い。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底及び日常の現象との関連づけを持たせる。 ・習得のために、多くの時間を費やす必要がある。問題演習も含め、長期的・継続的に取り組ませる。 ・1コマの授業の中で、生徒全員の実験、観察技能を確認、評価することを毎回実施することが難しい。 ・授業の内容がある程度、進めていかないと、小テストを行えるだけの量の問題が作れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、書く、話し合う、解くなど何をすべきかをはっきりと明示する。また、日常生活と学習単元との関連を踏まえて、授業を展開していく。 ・記述問題に取り組ませる。実験観察の際のレポートで書き方の指導で繰り返し、ポイントを伝え、定着をはかる。考察を行わせる際に、考えるために必要な情報（結果のどこを見るか）を見つけるための指導を重点的に行う。 ・実験、観察の実技と併せて、ペーパーテストなども活用し、技能と知識の定着をはかる。 ・学習内容の定着度合いを確認する小テストなどを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提示など視覚的に捉えやすいものを作成・活用する。 ・お手本となるものの提示を行う。また、実験結果を比べる際など項目を色分けし、その関係を示す。 ・実験、観察の操作を不得意とする生徒を中心に机間指導を重点的に行う ・1枚の小テスト内での問難易度別の内容を取り入れる。

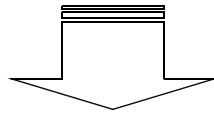
理科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- ・ 「自然に対する関心・意欲・態度」については、学習に取り組む姿勢や授業への意欲は概ね満足できる。
- ・ 「科学的な思考・表現」に関して、事象を分析する力、計算やグラフ・表の結果から一般的な法則を論理的に考え導く力に努力を要する。加えて、考えを発表したり、議論したりする力に努力を要する。
- ・ 「観察・実験の技能」については、意欲的に取り組み、観察・実験の目的と方法の関係を理解して行う生徒がいる。一方で、観察・実験を目的意識が不十分なまま行う生徒もいる。
- ・ 「自然事象についての知識・理解」については、これまでの学習内容を整理し基本的な知識・理解を定着する必要がある。
- ・ 4月に行ったWATの結果より全国平均と比べると、各観点ともにAの段階が少なくB・C段階の生徒の割合が多かった。しかし、7月に行った都学力調査では実施された3つの観点(関心・意欲・態度以外)については、全観点において平均を上回り良好な傾向が示された。

②指導方法の課題分析と改善策



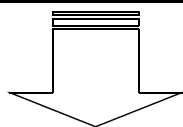
	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいをより明確にする。 ・観察・実験の目的をしっかりとたせる。 ・観察・実験の結果から科学的な法則を自ら導き出す考察を行う。 ・学び合いにより、学習を深める。 ・基本的な語句を覚えるとともに自然事象・法則を理解させ、知識を定着させる。 ・ICT機器を活用し、学習が効果的に行える工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに生徒が理解しやすい提示をする。 ・観察・実験の説明に時間をかけ目的意識を常にもたせる。 ・観察・実験の結果を予想させたり、結果から因果関係を考える取組を充実させる。 ・話し合い活動をより効果的に取り組む。 ・毎時間、前時の授業内容を確認する。 ・問題演習を授業中に取り入れ、机間指導をしてつまずきのある生徒を見つけ出し指導する。 ・表、図等の理解が困難な箇所やどこを参照するのか困っている生徒に対し、書画カメラにより教材を提示することで改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料等により生徒の興味が高まる導入の工夫をする。 ・抽象的な事例はなるべく具体的事例に展開し、分かりやすく指導する。 ・代表的な実験については、問題演習を取り入れ確認するとともに、定着を図る。 ・こまめに基本知識を確認し、理解度を深めていく。 ・問題演習に複合的、応用的な設問を含ませ、総合的に対応できるようにする。 ・話し合いの発表等に活用する。また、興味・関心が高める教材を提示する。

理科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や授業アンケート、考査結果分析

—— 十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など ——

- ・「自然に対する関心・意欲・態度」については、多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。観察・実験においても概ね同様である。
- ・「科学的な思考・表現」については、化学変化、熱量に関する問題など抽象的な内容になる単元において、正答率、習得度合が下がる傾向にある。特に理科を苦手とする生徒はその傾向が強く表れている。生物(動物の単元)など具体的なものや実際に目で見えるものについては、多くの生徒が学習内容を習得しやすいようである。
- ・「観察・実験の技能」については、単元によって、正答率の割合がまちまちである。ある単元でしか使用しない方法や実験道具、技能については授業改善、習得のさせ方を改善させる必要がある。
- ・「自然現象についての知識・理解」については、「科学的な思考・表現」と同様に特に化学、物理の単元において特に全国と本校との比較、また本校内の生徒同士の比較において差があった。生物、地学の単元より難しさを感じる生徒が多いようである。



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な内容、応用にも関心を持たせるようにする。 ・特定の単元に絞って、集中的に取り組ませる。 ・3年間で学ぶ実験・観察の技法などについてまとめをさせる機会が必要である。 ・化学、物理を中心に実施する際の学力の差が考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習などを利用し、様々なパターンの問題に取り組ませる。 ・特定の単元の計算問題や作図、化学反応式、記述式の問題などテーマごとに取り組ませる。 ・実験・観察に特化したまとめを行い、知識面も合わせ、学習内容を整理させる。 ・基礎項目(重要語句)の復習を中心に基礎内容の習得率が上がるよう小テストや講義形式の授業を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題への対策も踏まえ実施していく。 ・公式の確認と基本問題を解けるよう苦手をしている生徒への指導を重点的に行う。 ・まとめ専用の教材の作成、利用を行う。 ・1枚の小テスト内での問難易度別の内容を取り入れる。

R01年度

音楽科（第1学年） 授業改善推進プラン

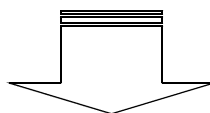
①内容別・観点別の分析 ・ 日常の授業観察・授業アンケート・考查分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ

<生徒の実態と課題>

- ・ 音楽への興味・関心が高く、歌唱・器楽・鑑賞に積極的に取り組む生徒が多い。
- ・ 鑑賞授業で活用するワークシートを希望する生徒が多いので工夫した内容で作成する。
- ・ 中学生に応じた歌唱や器楽の音楽表現の技能や、鑑賞の力を伸ばすことが課題である。
- ・ 男子生徒は変声中で発声に支障があり音程もとりにくいが、身体の成長としての変声のしくみを理解させ、声変わりを前向きに捉え、自信を持って発声表現して音楽を楽しむ雰囲気作りを工夫することが課題である。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の向上 ・ 基礎、基本の定着 ・ 表現技能の向上 ・ 鑑賞の力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャイム着席、忘れ物などの授業規律について、毎回評価や自己評価を続け、励ましや声かけを行っていく。 ・ ワークやプリントを使つての基礎学習の反復 ・ 生徒が理解しやすい言葉かけ ・ パート練習で生徒から意見を出し合い、自分たちの表現を客観的に理解し工夫させる。 ・ パートリーダーの育成と教え合い学習の実践 ・ ワークシート作成の工夫 イメージを言葉につなげる指導の工夫で分析、批評の力をつけさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉指導と同時に、必要な生徒への個別指導をきめこまかく継続する。 ・ 授業導入・まとめの確認 ・ パートリーダー支援 ・ 提出物の添削

音楽科（第2学年） 授業改善推進プラン

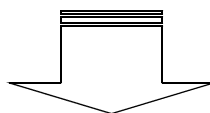
①内容別・観点別の分析 ・ 日常の授業観察・授業アンケート・考査分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ

<生徒の実態と課題>

- ・ 音楽への興味・関心・意欲にやや差が見られる。
- ・ 読譜に苦手感をもった生徒に意識づけと支援を行い、鑑賞ではワークシート作成を工夫して、積極的な学習態度を育てる。
- ・ 授業規律や提出物などに課題を抱える生徒には、丁寧に声かけ支援を行う。
- ・ 音楽の基礎的な理解事項や知識について基づき、楽曲の深い理解や表現技能を伸ばしていくことが課題である。(美しい共鳴のある発声・リコーダーの技術の向上など)

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の確立 ・ 学習意欲の向上 ・ 基礎、基本の定着 ・ 表現技能の向上 ・ 鑑賞の力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ごとの具体的目標の提示（声変え・板書） ・ 教師の評価、生徒の自己評価による振り返りの継続活動 ・ ワークやプリントを使った音楽の理解と批評の学習 ・ 生徒が理解しやすくイメージしやすいワークシートの作成 ・ 歌唱練習において、パートリーダー主導の「教えあい練習」の実践 ・ 模範演奏・模範演技でイメージをつかませる ・ 生徒が理解しやすくイメージしやすいワークシートの作成 ・ イメージを、生徒の言語表現や批評文につなげられる指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の楽しみ方を味わい方を伝える声かけ ・ 課題提出と評価 ・ パートリーダー会議 ・ パートリーダー指導 ・ 提出物の添削

音楽科（第3学年） 授業改善推進プラン

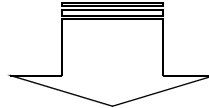
①内容別・観点別の分析 ・ 日常の授業観察・授業アンケート・考査分析

— 十分満足できるところ ・ 努力を要するところ —

<生徒の実態と課題>

- ・ 最上級生の自覚をもって、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。
- ・ 身体の発達（声帯の完成）を踏まえ、美しい共鳴発声と音程の安定、歌詞内容を踏まえた歌唱表現力の工夫が課題である。
- ・ 楽曲の背景や構成の理解と、これを分析して批評する力や音楽表現に生かす力を伸ばす。生徒がイメージし理解しやすいワークシート作成の工夫
- ・ 義務教育のまとめとして、社会に通用する音楽基礎的知識と、生涯に渡って音楽を愛好して心豊かに生活できる力を育て、定着させる授業内容の工夫が課題である。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲の向上 ・ 基礎、基本の定着 ・ 表現技能の向上 ・ 鑑賞の力をつける ・ 中学校の音楽学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パートリーダーの育成、交流、模範教材の鑑賞 ・ わかりやすい主題提示とそれに対する教師の評価・生徒による自己評価 ・ ワークやプリントを使つての反復学習 ・ 生徒が理解しやすくイメージしやすい教師の言葉かけ。 ・ 他生徒の意見を交換する話し合い・教えあい学習。 ・ パートリーダーの育成と教え合い学習 ・ 模範演奏・模範演技指導 ・ ワークシートの工夫 イメージを言葉につなげる指導の工夫で分析、批評の力をつけさせる ・ 卒業式での発表と指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の音楽リーダー養成会議（夏休み） ・ 課題提出と評価 ・ パートリーダー指導 ・ 提出物の添削 ・ 下級生に残し伝える音楽文化の意識を持たせる指導

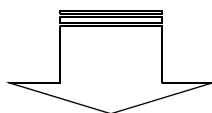
美術科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- ・どの課題も興味を持って、取り組むことができる。
- ・制作を楽しもうとする姿勢が感じられる。
- ・導入時の説明を理解できる生徒が多く、制作をスムーズにスタートすることができる。
- ・技能の能力が低い生徒が多く、課題によっては根気よく作業することができない。
- ・発想力のある生徒も多く、ユニークな作品を意欲的に制作できている。
- ・他の生徒作品や、芸術家の作品の鑑賞を、興味を持って取り組むことができている。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ルールの徹底 ・物作りの楽しさを知る ・理解と作業の個人差 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の導入を多くし、理解しやすいようにする。(作者の意図も理解させる。) ・資料集の活用。 ・導入時の説明は静かに聞かせるよう、プロジェクターや実物投影機を使用し、分かりやすく説明する。 ・他者の作品を意識しすぎてしまい、早期の段階で制作意欲を失う生徒もいるので、結果だけではなく、物作りそのものの楽しさを理解させる。 ・作品提出を徹底させ、作業が遅い生徒や、苦手な生徒でも作り上げることで達成感が得られることを実感させる。 ・生徒個人をよく見、こまめに声を掛けて集中を持続させる。作業が早すぎる場合もよく見極めて、いい加減な時はやり直しやこのまま完成させてよいかを考えさせる。 ・プリントなどで補助資料を用意し、説明後も確認できるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の動線をスムーズにし、余計な行動や発言ができない雰囲気作りを徹底する。 ・参考とする作品例を、技術的に優れたものばかりをあげるのではなく、発想力に優れたものなど様々な観点から作品の良さが引き出せるよう工夫する。 ・作業の苦手な生徒や遅い生徒への配慮を心がけ、昼休みや放課後など、できるだけ活用していく。 ・制作中騒がしくなった場合、制作中の生徒作品のよい所を全員に紹介して、関心を高め作業に集中させる。

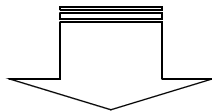
美術科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- ・どの課題も興味を持って、熱心に取り組むことができる。
- ・決められた作業を黙々とこなすことはできるが、自分で考え工夫する発想力は弱い。
- ・実物投影機の使用頻度を高めたことで、導入時の説明をスムーズに理解することができている。
- ・個々の指導を素直に受ける生徒が多いが、全体指導での説明を、自分のことに置き換えてしっかり聞くことができない生徒も多く、ある一定の水準から作品が上がりにくい。
- ・技能の能力が低い生徒が多く、課題によっては根気よく作業することができない。
- ・他の生徒作品や、芸術家の作品の鑑賞を、興味を持って取り組むことができている。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・1年での基礎をもとに、表現の力、発想の力をさらに伸ばす。 ・物作りの楽しさを知る。 ・理解と作業の個人差 	<ul style="list-style-type: none"> ・各作業段階で、参考作品の提示により、アイデアを出しやすくする。 ・実物投影機とプロジェクターを使用しての作業指導を行うことで、どの生徒にも理解しやすい指導に努める。 ・他者の作品を意識しすぎてしまい、早期の段階で制作意欲を失う生徒もいるので、結果だけではなく、物作りそのものの楽しさを理解させる。 ・作品提出を徹底させ、作業が遅い生徒や、苦手な生徒でも作り上げることで達成感が得られることを実感させる。 ・生徒個人をよく見て声をまめに掛けて集中を持続させる。作業が早すぎる場合もよく見極めて、いい加減な時はやり直しやこのまま完成させてよいか考えさせる。 ・プリントなどで補助資料を用意し、説明後も確認できるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の苦手な生徒や遅い生徒への配慮を心がけ、昼休みや放課後など、できるだけ活用していく。 ・参考とする作品例を、技術的に優れたものばかりをあげるのではなく、発想力に優れたものなど様々な観点から作品の良さが引き出せるよう工夫する。 ・作業の苦手な生徒や遅い生徒への配慮を心がけ、昼休みや放課後など、できるだけ活用していく。

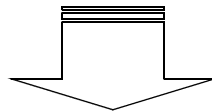
美術科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析 {
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

- ・どんな課題でも興味を持って取り組むことができ、制作に意欲的である。
- ・決められた作業を黙々とこなし、自分で考え工夫する発想力が身についてきている。
- ・技能の能力が高い生徒が多く、能力に応じて目標とする課題設定をし、取り組める。
- ・指導に素直なため個別指導が入りやすく、最後まで根気よく取り組む姿勢が感じられるが、指示待ち傾向もあり、自ら進んで創意工夫できるとよい。
- ・美術史を学習することにより、日本の文化のすばらしさと実際に見学する 日本の建築物、仏像等の良さを味わわせる。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間のまとめ、自己の表現方法を考えると共に、より完成度の高い作品づくりをさせる。 ・修学旅行を機会とし、日本の古都の美術的文化に対する理解と鑑賞力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい課題を提示するときは、説明を十分に行う。手順や、ねらいを把握した上で授業の作業に参加させる。 ・仏像や建築物の写真と実物の違いを実感できるよう前もってプリントで学習し、修学旅行後感想文に書かせる。 修学旅行の雑記帳(スケッチブック)の表紙絵の制作 ・プリントなどで補助資料を用意し、説明後も確認できるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作業が進められているか、作業内容ごとに進行状況をチェックし、遅れがないよう配慮する。 ・実力のある生徒には、簡単に作業を終わらせないように、指導していく。 ・教科書だけでなく建築方法や、時代ごとの変化など生徒が興味をもてるような説明文を工夫する。 ・日本の事の美術文化に一層の興味と関心を持たせ、スケッチブックの表紙絵の制作に生かす。

保健体育科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

・運動に対して愛好的な姿勢が見られる。しかし、実技においては種目によって積極的に取り組める生徒と苦手意識を持つ生徒に分かれてしまう。基礎体力については、新体力テストの結果から見て、女子の投力や男子の柔軟性などいくつかの項目で努力を要するところである。

→ 個々の愛好的な姿勢を生かせるよう、「する・見る・知る・支える」の視点から様々な関りが運動につながっていくことを十分理解し、運動をすることによって得られる楽しさや充実感をより感じられるような授業の展開をしていかなければならない。また、基礎体力向上のため、授業時間での運動に関する活動時間をより多く確保する必要がある。単元に必要な主運動につながる補助運動として努力の必要な体力についての運動を取り入れていく。

・「運動や健康・安全についての思考・判断」に関しては、技能を身に着けるために必要な知識を活用して仲間へのアドバイスや自己の取り組みへの振り返りとする部分がまだ十分に身につけていない。

→ 学習した内容を十分理解し、主体的に学習に取り組む姿勢が身につく取り組みが必要である。そのために自己の取り組みを振り返る手段として、学習カードの活用や ICT 機器の活用、資料等を生かし、授業展開をしていく。

・特に配慮が必要な生徒に対する指導(個別指導も含め)の丁寧さが必要である。

②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題把握の確認(する・見る・知る・支えるの観点から) ・運動に関する活動時間の確保 ・配慮の必要な生徒に対する指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題をより明確に生徒に提示し、それを十分に意識した中での授業展開。 ・学習カードや ICT 機器の活用で、自己の取り組みや振り返りを行いやすくし、基礎・基本の定着をはかる。 ・基礎体力の向上に向けて、主運動につながる補助的運動を多く取り入れる。 ・授業前の確認事項の徹底と授業内の声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握の難しい生徒に関しては、課題を例示し、示された課題の解決方法を思考し、判断できるように指導する。 ・学習カードや ICT 機器の活用により自己の課題や、チームの課題解決に向けて、より深く考えられるようにする。 ・グループ活動をすることで互いに課題を指摘しあうなど、深い学びへとつなげる。 ・単元に合わせて主運動に合わせた補助運動を毎時間取り入れ、体の動かし方と照らし合わせるようにする。 ・授業の課題や流れをわかりやすく提示する。

保健体育科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

・運動に対して愛好的な姿勢が見られる。しかし、実技においては種目によって積極的に取り組める生徒と苦手意識を持つ生徒に分かれてしまう。基礎体力については、新体力テストの結果から見て、女子の投力や男子の柔軟性などいくつかの項目で努力を要するところである。

→ この愛好的な姿勢を生かせるよう、「する・見る・知る・支える」の視点から様々な関りが運動につながっていくことを十分理解し、運動をすることによって得られる楽しさや充実感をより感じられるような授業の展開をしていかなければならない。また、基礎体力向上のため、授業時間での運動に関する活動時間をより多く確保する必要がある。単元に必要な主運動につながる補助運動として努力の必要な体力についての運動を取り入れていく。

・「運動や健康・安全についての思考・判断」に関しては、技能を身に着けるために必要な知識を活用して仲間へのアドバイスや自己の取り組みへの振り返るとともに発展的な活動に向かって考えを深めることができていない。

→ 学習した内容を十分理解し、主体的に学習に取り組む姿勢が身につく取り組み、その上で発展的な活動へ向かうためのめに自己の取り組みを振り返る手段として、学習カードの活用や ICT 機器の活用、資料等を生かした授業展開をしていく。

・特に配慮が必要な生徒に対する指導(個別指導も含め)の丁寧さが必要である。

②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題把握の確認(する・見る・知る・支えるの観点から) ・運動に関する活動時間の確保 ・配慮の必要な生徒に対する指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題をより明確に生徒に提示し、それを十分に意識した中での授業展開。 ・学習カードや ICT 機器の活用で、自己の取り組みや振り返りを行いやすくし、発展的な内容へと学びを深められるようにする。 ・基礎体力の向上に向けて、主運動につながる補助的運動を多く取り入れる。 ・授業前の確認事項の徹底と授業内の声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握の難しい生徒に関しては、課題を例示し、示された課題の解決方法を思考し、判断できるよう指導する。 ・学習カードや ICT 機器の活用により自己の課題や、チームの課題解決に向けて、より深く考えられるようにする。 ・グループ活動をすることで互いに課題を指摘しあうなど、深い学びへとつなげる。 ・単元に合わせて主運動に合わせた補助運動を毎時間取り入れ、体の動かし方と照らし合わせるようにする。 ・授業の課題や流れをわかりやすく提示する。

保健体育科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

・運動に対して愛好的な姿勢が見られる。しかし、実技においては種目によって積極的に取り組める生徒と苦手意識を持つ生徒に分かれてしまう。基礎体力については、新体力テストの結果から見て、女子の投力や男子の柔軟性などいくつかの項目で努力を要するところである。

→ この愛好的な姿勢を生かせるよう、「生涯にわたって運動に親しむ能力を身に着ける」という観点から、体と心だけでなく様々な物事との関りが運動につながっていくことを十分理解し、運動をすることによって得られる楽しさや充実感をより感じられるような授業の展開をしていかなければならない。また、基礎体力向上のため、授業時間での運動に関する活動時間をより多く確保する必要がある。単元に必要な主運動につながる補助運動として努力の必要な体力についての運動を取り入れていく。

・「運動や健康・安全についての思考・判断」に関しては、技能を身に着けるために必要な知識を活用して仲間へのアドバイスや自己の取り組みへの振り返るとともに生涯にわたって運動に親しんでいくための基本的な力を深めることができていない。

→ 学習した内容を十分理解し、主体的に学習に取り組む姿勢が身につく取り組み、その上で発展的な活動へ向かうためのめに自己の取り組みを振り返る手段として、学習カードの活用や ICT 機器の活用、資料等を生かした授業展開をしていく。そして、運動に親しむ力を十分に育成していく。

・特別に配慮が必要な生徒に対する指導(個別指導も含め)の丁寧さが必要である。

②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題把握の確認(する・見る・知る・支えるの観点から) ・運動に関する活動時間の確保 ・配慮の必要な生徒に対する指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題をより明確に生徒に提示し、それを十分に意識した中での授業展開。 ・学習カードや ICT 機器の活用で、自己の取り組みや振り返りを行いやすくし、発展的な内容へと学びを深められるようにする。 ・基礎体力の向上に向けて、主運動につながる補助的運動を多く取り入れる。 ・ ・授業前の確認事項の徹底と授業内の声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握の難しい生徒に関しては、課題を例示し、示された課題の解決方法を思考し、判断できるように指導する。 ・学習カードや ICT 機器の活用により自己の課題や、チームの課題解決に向けて、より深く考え、生涯にわたって運動に親しむことのできる基礎を身に着ける。 ・グループ活動をすることで互いに課題を指摘しあうなど、深い学びへとつなげる。 ・単元に合わせて主運動に合わせた補助運動を毎時間取り入れ、体の動かし方と照らし合わせるようにする。 ・授業の課題や流れをわかりやすく提示する。

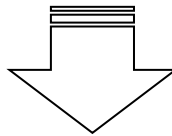
技術科（第一学年） 授業改善推進プラン（様式3）

- ①内容別・観点別の分析
- ・日常の指導や考査結果分析
 - ・授業アンケートの結果分析
 - ・授業ノート等の結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・全体的に落ち着いた雰囲気があり、授業に対する意欲関心が高く、学ぼうとする向上心も高い。
- ・本時のねらいが理解できず集中力に欠け、授業スピードについて行けない生徒が少数いる。
- ・定期考査までの期間が長く、その都度決められた範囲から出題し、学習の意欲と定着率を図る。
- ・家庭学習の定着がよくない生徒がいる。課題などを出し、取り組ませる。
- ・作業で遅れがちな生徒が若干いるので、その対応が課題である。
- ・実習作業での男女差はなく、協力して取り組んでいる。



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめや授業のまとめを工夫し、学習の定着率を向上させる。 ・授業ノートや実習作業内容確認などでまとめ、宿題などを実施して学習を工夫、充実させる。 ・作業に対する能力的な個人差があるので個別指導などの具体的な対策を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめを充実させるために、定期考査前に授業ノートや宿題などを実施する。 ・授業内容について、授業の序盤でプリントを使い内容を理解させてから作業に入る。また、プリントはノートに貼り復習しやすいように内容を充実させる。 ・グループ(班)作業を 活発にさせ、相互に支援する助け合い活動を促進させる。 ・作業時間を確保するために、休み時間中に教室移動をし、作業 準備を休み時間中にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅進生徒に対しては、放課後 などを使い、作業の補充を行う。 ・作業進度の早い生徒に対しては、発展的な課題を与え、 取り組ませる。 ・考えて行動できる生徒を育てるために、班での課題解決の ための話し合い等を与え取り 組ませる。また、チームワー クを重視する授業展開に改善 してゆく。

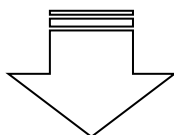
技術科（第二学年） 授業改善推進プラン（様式3）

- ①内容別・観点別の分析
- ・日常の指導や考査結果分析
 - ・授業アンケートの結果分析
 - ・授業ノート等の結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・基本的に授業に対する意欲関心が高く、作業に対する取り組みもよい。
- ・本時のねらいが理解できず、授業スピードについて行けない生徒が少数いる。
- ・基礎知識の学習が困難な生徒がいるので、定期考査前の学習のまとめを充実させ、効果的にまとめ学習ができるように授業ノートなどを工夫する必要がある。
- ・実習作業での男女差はなく、協力して取り組んでいる。



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前の学習のまとめについて、授業ノートの確認と考査前に課題を出し、自主的にまとめ学習ができるように指導を工夫する。 ・作業に対する能力的な個人差があるので個別指導などの具体的な対策を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノートの学習などを工夫し、努力した結果がわかりやすいように、内容を精選したり、課題に対する評価をしたり、具体的に提示することで、学習のまとめを意欲的にできるようにする。 ・作業が遅れがちな生徒の支援として、机間指導を頻繁に行い、助言や支援を行う。 ・班内での相互支援を促進させる。 ・作業時間を確保するために、休み時間中に教室移動をし、作業準備を休み時間中にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノートを工夫し、補充的な内容と発展的な内容に分け、生徒個々に応じて、その取り組む内容に対応した課題を準備する。 ・作業の準備片づけを含めて班単位で分担してできるようにさせているが、作業の遅進する仲間を進んで支援できるように助言する。 ・考えて行動できる生徒を育てるために、班での課題解決のための話し合い等を与え取り組ませる。また、チームワークを重視する授業展開に改善してゆく。

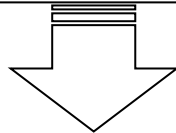
技術科（第三学年） 授業改善推進プラン（様式3）

- ①内容別・観点別の分析
- ・日常の指導や考査結果分析
 - ・授業アンケートの結果分析
 - ・授業ノート等の結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・全体的な傾向として、授業に対して意欲関心が高く、授業態度も良好である。
- ・授業ノートのまとめも時間内にでき、ほとんどの生徒は提出状況もよい。
- ・授業時間数が少ないので、1時間あたりの進み具合も早い。したがって、前時に欠席して作業が遅れた生徒の対応が大変である。
- ・定期考査までの授業回数が少なく、学習の定着率を考え、授業ノートのまとめ学習を充実させる。
- ・実習作業での男女差は少なく、個人差も少ない。



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査が3回になり、さらに隔週の授業において適切な進度の調整や学習のまとめが難しくなっている。 ・計画的な授業展開と考査範囲の確保、クラスによる授業進度のばらつきに工夫と改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の授業準備を充実させ、単元の内容を厳選し、重要ポイントが明確になるように授業を展開する。 ・授業時間が限られているため、宿題等も出す。 ・定期考査前の学習のまとめの実施と計画的に簡潔な授業展開になるように工夫と改善を行う。 ・授業時数が年17.5時間という中で評価・評定をつけるには、1時間あたりの個々の評価算出に工夫を凝らし授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の遅れがちな生徒に対して補充作業を行う。 ・考えて行動できる生徒を育てるために、班での課題解決のための話し合い等を与え取り組ませる。また、チームワークを重視する授業展開に改善してゆく。

家庭科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

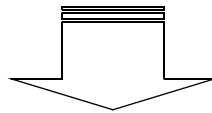
- ①内容別・観点別の分析 {
- ・WAT意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・授業に対する関心があり、真面目に取り組もうとしている生徒が多い。
- ・授業ノートやワークシートの記入は多くの生徒がきちんとできる。
- ・実習は積極的に取り組む生徒が多いが、生活体験が少ないため、基礎基本を学ばせるための実技実習や体験学習を授業になるべく多く取り入れる。
- ・作業で遅れがちな生徒が若干いるので、個別指導をする。
- ・課題の提出物が提出できない生徒が若干いるので、声掛けを繰り返す。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の知識の定着を図る。 ・製作作業においては進度に個人差があるので工夫と改善が必要。 ・作品製作により基本的な縫い方を学ばせる。 ・被服実習では、個別に取り組ませる。 ・自己の課題に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の定着率を図るために授業ノートの記入を徹底する。また、基礎を定着するため、小テストを行う。ワークシートを工夫し、楽しみながら学べるようにする。 ・本時の課題を明確にし、一斉指導をする。個人指導では各自の進度に合わせて、意欲を持たせて授業に取り組ませる。 ・楽しんで工夫できるような材料を用意し、積極的に取り組ませる。 ・個別にできる題材を選んで指導し、実技の向上をはかる。 ・自己評価をさせることで、目標の達成度や次回の課題を明確にさせて意欲の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の遅れている生徒に対して放課後の補充作業を行う。 ・作品に基礎基本を学べる材料にする。また、自分らしさを表現できる材料を用意し、作る楽しみを味わえるようにする。 ・長期休業中に課題学習をするように宿題を出す。

家庭科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

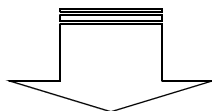
- ①内容別・観点別の分析 {
- ・WAT意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・授業に対する関心があり、真面目に取り組もうとしている生徒が多い。
- ・ワークシートへの記入もきちんとできている生徒が多い。
- ・作品製作では楽しんで意欲を持って取り組む生徒が多い。工夫できる題材を用意する。
- ・実習は積極的に取り組む生徒が多いが、生活体験が少ないため、基礎基本を学ばせるための実技実習や体験学習を授業になるべく多く取り入れる。
- ・作業で遅れがちな生徒には、個別指導をする。
- ・課題の提出物の未提出者には、繰り返し声掛けをする。

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の知識の定着を図る。 ・作業進度において、個人差があるので工夫と改善が必要。 ・自己の課題に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の定着率を図るためにワークシートの記入の徹底指導をする。毎回小テストを行う。 ・各自の進度を把握し、様子を見ながら授業を進めていく。 ・本時の課題を明確にし、一斉指導をする。個人指導では各自の進度に合わせて、意欲を持たせて授業に取り組ませる。 ・楽しんで工夫できるような材料を用意し、積極的に取り組ませる。 ・自己評価をさせることで、目標の達成度や次回の課題を明確にさせて意欲の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の遅れている生徒に対して放課後の補充作業を行う。 ・作品に基礎基本を学べる材料にする。また、自分らしさを表現できる材料を用意し、作る楽しさを味わえるようにする。 ・長期休業中に課題学習をするように宿題を出す。

家庭科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

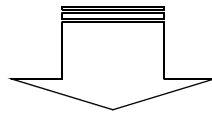
- ①内容別・観点別の分析 {
- ・WAT意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など

＜生徒の実態と課題＞

- ・ 全体的に、積極的に取り組む生徒が多い。
- ・ ワークシートへの記入もほとんどの生徒がきちんとできている。
- ・ 実習については意欲を持って取り組もうとしている生徒が多い。
- ・ 作品製作では楽しんで意欲を持って取り組む生徒が多い。しかし、時間内に計画的に作業を進めることができずにいる生徒がいる。
- ・ 作業で遅れがちな生徒が若干いるので、個別指導をしする。

②指導方法の課題分析と改善策

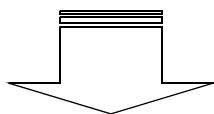


	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本の知識の定着を図る。 ・ 作業進度において、個人差があるので工夫と改善が必要。 ・ 自己の課題に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の定着率を図るために学習ノートやワークシートの記入の徹底指導をする。毎回小テストを行い学習の定着を促す。 ・ 体験や実習の時間を多くし、実践により、基礎知識を定着させる。 ・ 各自の進度を把握し、個に応じた指導をしていく。 ・ 個人指導では各自の進度に合わせて、意欲を持たせて授業に取り組ませる。 ・ 自己評価をさせることで、目標の達成度や次回の課題を明確にさせて意欲の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後の補充学習を実施する。 ・ 作品に基礎基本をふまえて応用のできる材料にする。また、自分らしさを表現できる材料を用意し、作る楽しさを味わえるようにする。

英語科(第一学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・意識調査の結果分析
 - ・日常の指導や考査結果分析

	<p>十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など</p> <p>「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」について</p> <ol style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒がコミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる。 ミスを恐れずコミュニケーション活動や発言に積極的に参加する生徒が大半なので、さらに効果的な活動につなげる工夫が必要である。 英語に対して苦手意識を持っている生徒が多少いるので、英語に興味を持たせるとともに力をつけさせる工夫が必要である。 <p>「表現の能力」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 「話すこと」については、多くの生徒が音読やスピーチ、アクティビティなどに積極的に取り組んでいて成果をあげている。 「話すこと」による表現はできるが、「書くこと」を苦手とする生徒が多い。 口頭で英単語を言うことはできても、意味の通じる英文を作ったりスペリングを正確に表記することができない傾向がある。 <p>「理解の能力」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 「聞くこと」については、ほとんどの生徒が多少未習語があっても意欲的に聞き取ろうとしていて、大まかな内容を理解することができる。 「読むこと」については、読めない単語があるために、英文の概要も理解できない生徒が一部に見られる。今後、きめの細かい指導を行っていく必要がある。 <p>「言語や文化の知識・理解」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国の言語や文化に興味や関心を持ち、意欲が高い生徒が多い。 語彙や文法については、十分に定着していない生徒もいる。
--	--



②指導方法の課題分析と改善策

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を徹底させ、集中して授業に参加させる。 ・英作文の力を伸ばす。 ・読解力の向上を図る。 ・英語に対する苦手意識を減らす。 ・語彙力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時持ち物や宿題のチェックを行うとともに、全員が発言する機会を作ったり、教科書だけでなくアクティビティーなどを導入することにより、集中して授業に取り組む雰囲気を作る。 ・基本文の定着を図るとともに、ワークシートを使いながら身のまわりのことを英語で話したり書いたりする機会を増やしていく。 ・読解の問題演習を行い、授業内で読解力を定着させることができるようにする。 ・BINGOなどのゲーム的な要素を取り入れたり、導入に工夫する。 ・定期的に英単語テストを行う。また、スペリングコンテストなどを実施することで、語彙の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導や提出物の確認を丁寧に行い、個々の学習状況を適切に把握する。 ・ALTとの授業を活用して、生徒が書いた英文を添削し、レベルアップを図る。 ・Unitごとに基本文のテストを行い、定着を図る。 ・少人数授業を効果的に活用し、理解に時間がかかる生徒の支援を行う。 ・必要に応じて、英単語テストやスペリングコンテストの再テストを行う。

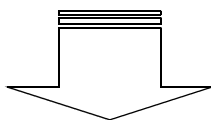
英語科(第二学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

十分満足できるところ・努力を要するところなど

- ・「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」について
 1. 多くの生徒が落ち着いて、意欲的に授業に取り組んでいる。
 2. 積極的に発言しようとする生徒が多い。宿題や小テストへの取り組みについても、多くの生徒はよく努力している。
 3. 英語に対する興味・関心が薄れ苦手意識を持ち始めた生徒が増えてきているので、英語に興味を持たせる工夫が必要である。
- ・「表現の能力」について
 1. 「書くこと」については、1年時より新出単語の定着を図ってきたためか、多くの生徒が基本的な単語は書けるようになった。しかし、英文を書くことを苦手とする生徒が多いので、基本的な表現力が身につくように指導しなければならない。
 2. 「話すこと」については、ペアワークやスピーチの発表時ではほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。しかしながら、自己表現が苦手で声が小さくなってしまいがちな生徒や逃げ腰になる生徒も一部に見られる。
- ・「理解の能力」について
 1. 「聞くこと」について、意欲的に取り組む生徒が多い。
 2. 短い英文については、「読むこと」によって大まかな内容を理解することができる。しかし、英文が長いと、最後まで根気強く読むことができず適当に設問に答えてしまう生徒がいる。
- ・「言語や文化についての知識・理解」について
 1. 小テスト、定期テストともに、よく努力している生徒が多い。
 2. 語彙、文法項目ともに、その場では理解はするが、基礎学力として十分に定着していない生徒もいるので、復習や家庭学習の充実を図っていく必要がある。

②指導方法の課題分析と改善策



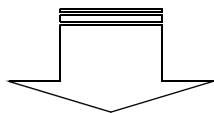
	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に対する苦手意識を減らしていく。 ・積極的に英語を音読したり話したりしようとする態度を育てる。 ・長文読解の力をつける。 ・語彙力の向上を図る。 ・聞く力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入部分での会話の題材を、生徒が興味を持ちそうなタイムリーなものにする。 ・英文音読の時は全員が大きな声を出すように促す。 ・基礎的な文法項目と語彙力の定着させる。 ・毎時、単語練習を課題に出したり、定期的に単語テストを行う。 ・授業内でリスニングの練習の時間を増やすとともになるべく英語で授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Classroom English の充実を図るとともに、授業時だけでなく、休み時間などもなるべく英語で話しかける。 ・少人数授業の特性を活かし、理解に時間がかかる生徒や意欲的でない生徒への声かけや支援を行う。 ・多彩なジャンルにわたる教科書以外の英文の読解に取り組みせる。 ・必要に応じて、放課後個別指導をしたり、定期考査前に質問教室を行う。 ・聞き取った内容について質問するなどして、細部まで正確に聞き取る習慣をつける。

英語科(第三学年) 授業改善推進プラン(様式3)

- ①内容別・観点別の分析
- ・学力調査や意識調査の結果分析
(学習診断テストの結果分析を含む)
 - ・日常の指導や考査結果分析

	<p style="text-align: center;">十分満足できるところ ・ 努力を要するところ など</p> <p>・「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほとんどの生徒が落ち着いて、意欲的に授業に取り組んでいる。 2. 積極的に発言しようとする生徒が多い。宿題や小テストへの取り組みについても、多くの生徒はよく努力している。 3. 3年生になって、学習内容が高度になってきたためか、基礎学力が十分に定着していない生徒の一部には、英語の学習に対する興味・関心を失いつつある者がいる。 <p>・「表現の能力」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「書くこと」については、英作文の指導に力を入れ、定期テストでは毎回「三文英作文」を出題してきたため、積極的に英語で表現しようとする生徒が多い。しかし、1つのテーマに基づいてまとまりのある英文を書いたり自分の考えや意見を書くことを苦手とする生徒が多いので、より豊かな発想力や表現力が身につくように指導しなければならない。 2. 「話すこと」については、インタビュー活動やスピーチの発表では、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。しかしながら、自己表現が苦手で声が小さくなってしまいがちな生徒や逃げ腰になる生徒も一部に見られる。 <p>・「理解の能力」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「聞くこと」については、特に意欲的に取り組む生徒が多く、「リスニング」の平均達成率は80パーセントを超えている。 2. 短い英文については、「読むこと」によって大まかな内容を理解することができる。しかし、英文が長いと、最後まで根気強く読むことができず適当に設問に答えてしまう生徒がいる。 <p>・「言語や文化についての知識・理解」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テスト、定期テストともに、よく努力している生徒が多い。 2. 語彙、文法項目ともに、その場では理解はするが、基礎学力として十分に定着していない生徒もいるので、復習や家庭学習の充実を図っていく必要がある。
--	--

②指導方法の課題分析と改善策



	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に対する苦手意識を減らしていく。 ・積極的に英語を音読したり話したりしようとする態度を育てる。 ・長文読解の力をつける。 ・語彙力の向上を図る。 ・聞く力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入部分での会話の題材を、生徒が興味を持ちそうなタイムリーなものにする。 ・英文音読の時は全員が大きな声を出すように促す。 ・基礎的な文法項目と語彙力をの定着させる。 ・毎時、単語練習を課題に出したり、定期的に単語テストを行う。 ・授業内でリスニングの練習の時間を増やすとともになるべく英語で授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Classroom English の充実を図るとともに、授業時だけでなく、休み時間などもなるべく英語で話しかける。 ・少人数授業の特性を活かし、理解に時間がかかる生徒や意欲的でない生徒への声かけや支援を行う。 ・朝学習を利用して、多彩なジャンルにわたる教科書以外の英文の読解に取り組ませる。 ・必要に応じて、放課後個別指導をしたり、定期考査前に質問教室を行う。 ・聞き取った内容について質問するなどして、細部まで正確に聞き取る習慣をつける。